

報告書抄録

ふりがな	せいなんちくいせきぐんはくつちようさほうこくしょ6							
書名	盛南地区遺跡群発掘調査報告書VI							
副書名	盛岡市新都市開発整備事業関連遺跡平成13～18年度発掘調査③ 飯岡沢田遺跡・飯岡才川遺跡・細谷地遺跡・矢盛遺跡・南仙北遺跡							
編著者名	津嶋知弘							
編集機関	盛岡市遺跡の学び館（刊行：独立行政法人都市再生機構・盛岡市・盛岡市教育委員会）							
所在地	〒020-0866 岩手県盛岡市本宮字荒屋13番地1 電話 019-635-6600							
発行年月日	2014年3月14日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名(略号)	所在地	市町村	遺跡番号	(世界測地系)			(㎡)	
いいわさきわだ 飯岡沢田 (ISD)	いわてけんもりおかしむかいなかのさんちようめ 岩手県盛岡市向中野3丁目, きたしいわかいちちようめ 北飯岡1丁目	03201	LE16-2169	39° 40' 42"	141° 8' 13"	4次:2001.12.19 6次:2002.7.22 7次:2002.11.12-11.14 8次:2003.5.8-5.30 11次:2004.10.4-11.8	191 10 171 2,488 2,531	土地区画整理事業等
いいわさきかわ 飯岡才川 (ISW)	いわてけんもりおかしむかいなかのちちようめ 岩手県盛岡市向中野5丁目, きたしいわかいちちようめ 北飯岡1丁目	03201	LE16-2291	39° 40' 44"	141° 8' 0"	10次:2005.8.4-9.13 11次:2005.11.7-12.16	3,750 1,775	
ほそやち 細谷地 (OHY)	いわてけんもりおかしむかいなかのちちようめ 岩手県盛岡市向中野5・ ななちようめむかいなかのあざほそやち 7丁目,向中野字細谷地	03201	LE26-0214	39° 40' 42"	141° 8' 19"	11次:2005.4.11-5.20	1,569	
やもり 矢盛 (IYM)	いわてけんもりおかしむかいなかの 岩手県盛岡市北飯岡 いち・にちようめ,むかいなかのななちようめ 1・2丁目,向中野7丁目	03201	LE26-0139	39° 40' 27"	141° 8' 5"	7次:2004.12.16-12.22 8次:2005.12.6-12.9	1,863 2,122	
みなみさんぼく 南仙北 (OMS)	いわてけんもりおかしむかいなかのさんちようめ 岩手県盛岡市向中野4・ ななちようめみなみさんぼくちちようめ 6丁目,南仙北2丁目	03201		39° 40' 37"	141° 8' 53"	37次:2005.9.20-11.22 38次:2006.4.14-7.21 39次:2006.11.28-12.6	1,386 2,890 2,275	
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
飯岡沢田4次	集落	古代		竪穴住居跡,土坑,溝跡		土師器,須恵器		試掘確認調査
飯岡沢田6次	集落	古代		円形周溝1				
飯岡沢田7次	集落	古代		竪穴住居跡,土坑,溝跡		須恵器,あかやき土器,ロクロかわらけ		試掘確認調査
飯岡沢田8次	集落	古代		竪穴住居跡1		土師器		
飯岡沢田11次	集落	古代		竪穴住居跡1,土坑6, 円形周溝1				
		古代以降		溝跡1				
飯岡才川10次	集落	縄文時代 古代 近世		陥し穴12 溝跡10 井戸跡1		唐津		
飯岡才川11次	集落	古代 古代以降 近世以降		竪穴住居跡7,掘立柱建物跡1 土坑1,集石遺構1,方形周溝1, 溝跡3 掘立柱建物跡4,掘立柱列跡3, 井戸跡1		土師器,須恵器,あかやき土器, 墨書土器「本」「方」		
細谷地11次	集落	古代 古代以降		竪穴住居跡7 掘立柱列跡1,土坑10, 畝状遺構5,ピット		土師器,須恵器,あかやき土器, 墨書土器		
矢盛7次	集落	古代以降		竪穴建物跡,溝跡				試掘確認調査
矢盛8次	集落	古代以降		掘立柱建物跡,溝跡,土坑				試掘確認調査
南仙北37・38次	集落	古代 古代以降 近世以降		竪穴住居跡11 土坑12,円形周溝2 土坑3,溝跡18,道路状遺構1		土師器,須恵器,あかやき土器, 墨書土器「大」, 土錘,砥石,鉄製紡錘車 近世陶磁器		
南仙北39次	集落	近世以降		溝跡1				
要約	盛南地区遺跡群は、平安時代初頭の延暦22年(803)に朝廷が造営した古代城柵「志波城」の南東方に位置し、7世紀より続く一大勢力「志波エミシ」が10世紀まで拠点とした古代集落群が主に確認されている。本書掲載のうち、飯岡沢田遺跡、飯岡才川遺跡、細谷地遺跡、南仙北遺跡で竪穴住居跡が検出された。飯岡沢田遺跡では古代の竪穴住居跡2棟が検出され、うち1棟は8世紀後半～9世紀前葉の大型住居であった。飯岡才川遺跡第11次調査では、遺跡の東部より古代の竪穴住居跡7棟(9世紀後葉～10世紀初頭)と掘立柱建物跡(高床倉庫)1棟が検出され、遺跡全体の調査成果から、その組み合わせがこの遺跡の古代集落の特徴であることが確認された。細谷地遺跡第11次調査では、遺跡の中央部より古代の竪穴住居跡3棟(9世紀後葉)が検出されたが、本調査区の北方と東方の調査区において古代の竪穴住居跡が200棟以上調査されており、台太郎遺跡の660棟に次ぐ規模である。南仙北遺跡第37・38次調査では、遺跡の北西部で竪穴住居跡11棟(9世紀中葉～後葉)が検出され、南北に長い遺跡範囲の中で、北部集落の中心地域であったことが確認された。							